

第22回大阪府公共建築設計コンクール「あすなる夢建築」

ー表彰式・プレゼンテーションー

日 時 : 平成25年3月25日(月) 13:00 ~

場 所 : 大阪府庁本館5階 正庁の間



主催:大阪府・社団法人大阪府建築士会・大阪府住宅供給公社

審査委員長 大坪 明 (武庫川女子大学 生活環境学部教授)

受賞者一覧(敬称略)

| | | | |
|--------|--------|-----------------|----|
| グランプリ | 山崎 智紀 | 日本理工情報専門学校 | 2年 |
| 準グランプリ | 平井 耀介 | 大阪建設専門学校 | 2年 |
| 優秀作品賞 | 栗野 瑞基 | 大阪市立都島工業高等学校 | 3年 |
| 優秀作品賞 | 宿野 綺秀 | 大阪建設専門学校 | 2年 |
| 佳作 | 藤野 巧巳 | 大阪市立都島工業高等学校 | 2年 |
| 佳作 | 田中 伸明 | 大阪府立西野田工科高等学校 | 3年 |
| 佳作 | 榎本 貴之 | 修成建設専門学校 | 1年 |
| 佳作 | 松本 一生 | 大阪府立芦原高等職業技術専門校 | 一 |
| 奨励賞 | 末永 かつら | 修成建設専門学校 | 1年 |
| 奨励賞 | 菊川 勇士 | 中央工学校 OSAKA | 1年 |
| | 谷川 勇弥 | | |

【表彰式】




- 13:00 開 会
- 13:05 開会挨拶
- 13:10 表彰 受賞 10 賞 (11 名)
- 13:25 閉 会
- 13:30 記念撮影




【プレゼンテーション】

- 14:00 開 会
主催者代表開会挨拶
- 14:10 プレゼンテーション (1人9分 × 6作品)
(発表：4分、質疑：3分、入替え2分)
- 15:05 休 憩
- 15:15 プレゼンテーション (1人11分×4作品)
(発表：5分、質疑：4分、入替え2分)
- 16:00 審査講評
審査委員長 大坪 明 (武庫川女子大学 生活環境学部教授)
- 16:15 休 憩
- 16:25 正庁の間 見学会
- 17:00 閉 会

— 受賞者の声 —

| | | |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| グランプリ | 山崎 智紀 | 日本理工情報専門学校 2年 |
| <p>私の案が独創的な「夢建築」かと言われれば、そうではないかもしれません。しかし、この集会所は人が輝けるとい意味で良い建物になると思います。その点を評価していただいた事はたいへん嬉しく思っています。入賞するにはどれだけ構想を練れるかにかかっています。ある程度プランが成熟すると必ず行き詰まり、この時に、その壁を何度打ち破れるかによって完成度が違ってきます。あとは運、らしいです。私の場合の土間が良しとされるか、悪しとされるかのように。</p> | |  |
| 準グランプリ | 平井 耀介 | 大阪建設専門学校 2年 |
| <p>2年間の学生生活最後にこのような大きな賞を頂けとても嬉しく思います。これから社会に出るうえで良い励みになりました。また、賞をいただけたのは2年間たくさんの知識を教えてくださいました先生方、そして一緒に学んできた良き仲間でありライバルでもあるクラスメイト達のアドバイスがあったからこそ貰えた賞でありみんなとの思い出です。</p> | |  |
| 優秀作品賞 | 粟野 瑞基 | 大阪市立都島工業高等学校 3年 |
| <p>受験もあり構想を練る時間もあまりなかったのでこのような賞をいただけると思いませんでした。この経験を糧にして、これからも建築について深く学び世界に羽ばたけるように頑張りたいと思います。</p> | |  |
| 優秀作品賞 | 宿野 綺秀 | 大阪建設専門学校 2年 |
| <p>このコンクールは昨年に続き2年連続の応募で昨年は選ばれなく悔しい思いをしました。その悔しさをバネに今年は優秀作品賞を受賞することが出来、本当に嬉しく思います。2年間建築を学んできての最後のコンクールで受賞出来たので、お世話になった学校の先生方にも少しは恩返し出来たのではないかと思いますのでみなさんに感謝しています。学生生活の最後にこのような成績を収められて自分にも自信が付き、これから社会に出ても自信をもっていきたいと思います。ありがとうございました。</p> | |  |

| | | |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 佳 作 | 藤野 巧巳 | 大阪市立都島工業高等学校 2年 |
| <p>このたびは数多くの応募作品の中から佳作として選んでいただき、ありがとうございます。コンクールの経験もほとんどなく、まだまだ未熟な私がこのようなすばらしい賞をいただけるとは、うれしさの反面、正直驚いています。</p> <p>今回の「集会所」の計画で考えたこととしては最近、核家族化が進み近所つきあいが薄れていく中で、中心部に中庭を持つこの建物が新たな「人と人の出会いの場」となればと思い設計しました。</p> <p>冬休みの期間中、この課題にずっと取り組んでいましたが、その間、熱心に指導してくださった先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。今後もこの気持ちを忘れずに日々努力し続けていきたいと思います。</p> | |  |
| 佳 作 | 田中 伸明 | 大阪府立西野田工科高等学校 3年 |
| <p>このたび受賞、大変驚いており、とてもうれしく思っております。</p> <p>これを糧に、精進していきたいと思っております。</p> <p>ありがとうございました。</p> | |  |
| 佳 作 | 榎本 貴之 | 修成建設専門学校 1年 |
| <p>大変驚いています。建築の専門的な勉強をまだ1年もしていないにもかかわらず、このような大変名誉な賞をもらえて、とても嬉しいです。</p> <p>作品作りの時は、色々な制約や条件があり、悪戦苦闘していましたが、先生方の的確なアドバイスと助言があったおかげで、自分の納得のいく作品を作り出すことが出来たので、良かったです。本当に学校の先生方には感謝の言葉がありません。またクラスメイトの子や周りで僕を支えてくれた家族にも感謝の言葉がありません。本当にありがとう！自分の作品が佳作に入選したと聞いた時めっちゃ驚きました。でも後になってから、その実感がわいてきました。絶対入選してやるの勢いで作品作りをし、まさか本当に入選するとは思っていませんでした。</p> <p>佳作でもとても嬉しいですが、本音はグランプリを狙っていたので、少し残念な気持ちがあるのも事実です。また来年も参加する事が出来るので、力を磨いてもっと上の賞に入選できるように日々頑張りたいです。</p> <p>最後にこのような学生のためのコンクールの機会を頂きました今回のコンクールに入選させて頂いて本当にありがとうございます。</p> | |  |

| | | |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 佳 作 | 松本 一生 | 大阪府立芦原高等職業技術専門校 |
| <p>このたびは、多くの作品の中から佳作に選んでいただきましてありがとうございました。</p> <p>この作品は、どのようにして地域の方々に楽しく便利に使っていただけるかを第一に考え、特に配置計画にこだわりました。</p> <p>そして作品での北側オープンスペースや東側の半屋外空間の提案に対して評価をいただけたことを嬉しく思います。</p> <p>今回のコンクールの経験を活かしつつ、これからも向上心を持って頑張りたいと思います。</p> <p>最後に短期間ながら中身の詰まった指導をしていただきました芦原高等職業技術専門校の諸先生方、また共に学び切磋琢磨し、良い影響を与えてくれたクラスメイト達に感謝します。本当にありがとうございました。</p> | |  |
| 奨励賞 | 末永 かつら | 修成建設専門学校 1年 |
| <p>奨励賞を頂き、大変嬉しく光栄に思っております。</p> <p>設計演習の授業の一環としてこの作品に取り組み、今回初めてコンクールに参加しました。</p> <p>まだまだ浅い知識の中で何かと躓くこともありましたが、様々な発見もあり、僅かながら自分自身の成長を感じることができました。</p> <p>また、自分の現状を知り課題を発見することができ、挑戦して本当に良かったです。</p> <p>このような機会を与えて頂き、感謝しております。入賞作品に選んで頂いたことを励みに、今後も積極的に見解を広げて行きたいと思います。</p> | |  |
| 奨励賞 | 菊川 勇士・谷川 勇弥 | 中央工学校 OSAKA 1年 |
| <p>僕たちは、去年のあすなろから奨励賞狙っていました。</p> <p>なぜなら、奨励賞はアイデアを高く評価してくれる賞だからです。</p> <p>取れると思っていたいなかったので賞をいただいて大変嬉しく思います。</p> | |  |



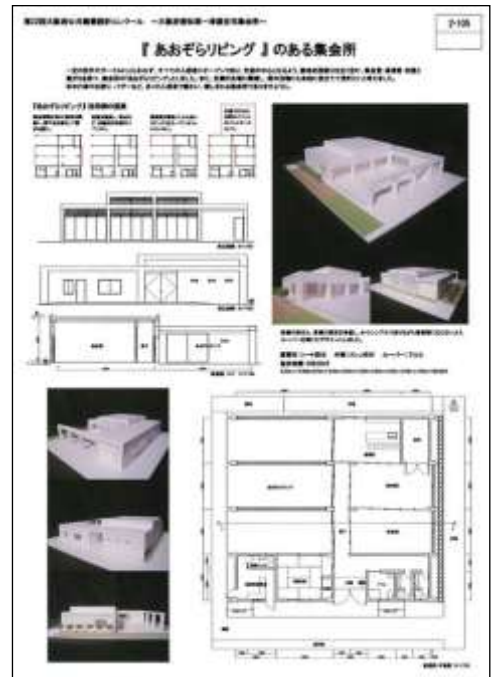
第22回大阪府公共建築設計コンクール「あすなる夢建築」 —プレゼンテーション発表一覧—

| 発表順 | 賞名 | タイトル | 作品番号 | 氏名 | 学校名 | 学年 | プレゼンのツール |
|-----|--------|-------------------------------|-------|-------------------------------|----------------------|----|----------|
| ① | 奨励賞 | 「あおぞらリビング」のある集会所 | 2-105 | すえなが 末永 かつら | 修成建設専門学校 | 1 | PPT |
| ② | 奨励賞 | Light and a shadow Temptation | 2-278 | きくかわ ゆうし たにかわ ゆうや 谷川 勇弥 | 中央工学校 OSAKA | 1 | PPT |
| ③ | 佳作 | Sun Sun ★ community | 1-25 | ふじの たくみ 藤野 巧巳 | 大阪市立 都島工業高等学校 | 2 | PPT |
| ④ | 佳作 | ふれあいひろがれ 大阪府営松原一津屋住宅集会所 | 1-52 | たなか のぶあき 田中 伸明 | 大阪府立 西野田工科高等学校 | 3 | PPT (音楽) |
| ⑤ | 佳作 | 外部と内部がつながる集会所 | 2-103 | えのもと たかゆき 榎本 貴之 | 修成建設専門学校 | 1 | PPT、模型 |
| ⑥ | 佳作 | Promenade -やすらぎの散歩道- | 2-287 | まつもと かすお 松本 一生 | 大阪府立 芦原高等職業技術専門学校 | - | PPT、模型 |
| ⑦ | 優秀作品賞 | みんなの集会場 | 1-11 | あわの みずき 栗野 瑞基 | 大阪市立 都島工業高等学校 | 3 | PPT |
| ⑧ | 優秀作品賞 | 集ーマル 大阪府営松原一津屋住宅集会所 | 2-317 | しゅくの きしゅう 宿野 綺秀 | 大阪建設専門学校 | 2 | PPT、模型2点 |
| ⑨ | 準グランプリ | ツナガリと記憶の集会所 | 2-320 | ひらい ようすけ 平井 耀介 | 大阪建設専門学校 | 2 | PPT、模型2点 |
| ⑩ | グランプリ | 土間ん中の賑わい | 2-336 | やまさき ともりの 山崎 智紀 | 日本理工情報専門学校 | 2 | PPT、模型 |

「あおぞらリビング」のある集会所

修成建設専門学校 1年

末永 かつら



【発表】

- 利用者が一定の世代やサークルに限られることのないように、誰もが利用できる開放的な建物であり、交流が芽生えるような団地全体を生き生きとした空間にしたいと計画した。
- 建物をL字型に配置し、敷地北西部を大きく開放した「あおぞらリビング」を設置した。
- みんなが共有する居間のような存在としたいと思い、誰もが自由に使えて、全ての室にアクセスできるようにした。湯沸室を開放したオープンカフェスタイルや、広場との連携など。
- 造形については、人の集まりを象徴的に示すために通路側にフレームを設け、屋根等は設けずに開放的にした。また同スパンを繰り返すにより、左右対称の立面ですっきりとしたデザインにまとめた。
- 近所づきあいのし易さや子供の遊び場、井戸端会議など、団地の長所が大いに活用されることを願っています。

【質疑応答】

(山崎さん)・あおぞらリビングは具体的にどのような利用を想定しているか。

(末永さん)・北側では、倉庫に用意したテーブルを出してくる。

(大坪委員長)

- フレームが効いている。フレームの活用や役割があればもっとよくなった。
- 屋内空間と屋外空間をどうやって連続的に使えるのか考えている点がよかった。
- 模型が周囲を含めて作成していない点は残念。ぜひ、周囲を含めて作り、周囲の影響を検討しながらデザインして欲しい。

(平田委員)

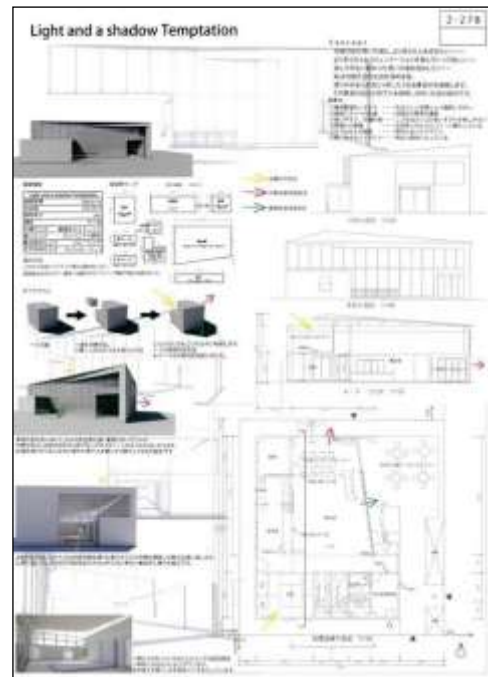
- あおぞらリビングが色々な使い方ができるということを提案されている点がよかった。
- 集会所が北側の広場と一体的に使える提案もよい。

奨励賞

Light and a shadow Temptation

中央工学校 OSAKA 1年

菊川 勇士・谷川 勇弥



【発表】

- 設計者の願いとして、「より多くの人を招くこと」、「より多くの人とのコミュニケーションを育むこと」、「寂しさのない憩いの場を提供すること」とした。
- そのために、光と影で人の温もりを感じる空間を演出することを考えた。光と影で団地内外の住民を誘惑し、人を集めるようにした。
- 建物の一部を切り取って、光を取り入れる部分を設けた。
東側や北側はガラスの外壁を通して内部空間を映し出すことで、歩道を通る人や広場で遊ぶ子供が導かれる仕組みとした。
- 天井の高さを高くすることで、教会のようなものをイメージした。

【質疑応答】

(大坪委員長)

- デザインがシンプルで力強いことが評価された。
- 建物の東側を通る人から中がうかがえるのがよい。集会所は中のアクティビティが外に見えることが非常に重要。「入ってみよう。」と誘発されるデザインが必要。
- デザインは評価されるが、実際に使うという意味をもう少し考えるとグランプリに近づく。
- 近年の審査では「いかに使う側が使いやすくメンテナンスしやすいか」を重視している。学生には難しいという声もあるが、現実に建物を作るとことに直面した時にはやはり重要。

(平田委員)

- 最も印象に残ったことは、立面がきれいなこと。特に外観がシャープ。
- 階高が高く大スパンであるなど、実際の施工を考えると課題。
- 課題はあるが、光の取り入れ方、立面の造り方はやはりすばらしい。

佳作

SunSun ★ community

大阪市立都島工業高等学校 2年
藤野 巧巳



【発表】

- 中庭とトイレを中心に置くコアとし、その周りに部屋を設けた。さらにその周囲をガラス張りにし、出入口も配置することで、外と中の一体化を図った。
- 多くの窓を通して光を多く取れるようになり、サンサンと太陽の暖かな光が入る。
- 外からも集会所内の様子を感じられるようにし、また、出入りができるようにすることで様々な人のふれあいが生まれる。
- サンサンとした空間でコミュニケーションが生まれる、「SunSun ★ community (サンサンコミュニティ)」。
- 中央にある中庭を通して、北側の集会室にも光が入るようにした。
- 開口を多く設けたことで採光や通風を取り入れることができるようにした。
- 廊下を 1.5m と広くとり、車椅子の人も廊下へすぐアクセスできるようにした。
- 集会室と湯沸室はどこからでも出入りできるようにした。
- 上から見ると、中庭の木や中の人の変化もわかり、団地の人が見ても楽しいものとした。

【質疑応答】

(大坪委員長)

- 最も評価した点は、全ての面から内部の活動を見ることが出来る点、そうするためのトイレの配置の工夫。
- 惜しい点は、高くなっている中央の屋根。例えば民家の押し屋根のような換気の役割を持たせるなど、有効に利用できればなおよかった。

(平田委員)

- 外から中が見えるのがよい。
- 中からも周囲がよく見えるのもひとつの特徴。

佳作

ふれあいひろがれ 大阪府営松原一津屋住宅集会所

大阪府立西野田工科高等学校 3年

田中 申明



【発表】

※音楽を用いた発表

- 配置計画では、周辺の人々の利用を考慮し、歩道や団地内からのアクセスを考えた。テラスやパーゴラを設け、集会室が住人から見えるような誘導とした。
- 平面計画では、広場に面してテラスを設け、集会室と一体的に利用できるようにした。ウッドデッキに接して廊下を設け、廊下を通るときも集会室が見えるようにした。
- 立面計画では、開口部を大きく取るように工夫した。ハイサイドライトを設け、集会所が明るくなるように配慮した。
- ティータイムモード、集会等に適したクローズドモード、屋外との開放を図るオープンモード、夏祭りなどで建物全体を使い切るフェスティバルモードと、いろいろな使い方を設定した。

【質疑応答】

(大坪委員長)

- 三次元CADのアニメーションを用いたプレゼンが効果的。
- 図面が非常に丁寧、審査側としてもうれしい。
- 惜しい点は、人が通る東側への工夫。ウッドデッキはむしろ東側にあったほうがよかったかもしれない。
- 全体はうまくまとめられている。

(平田委員)

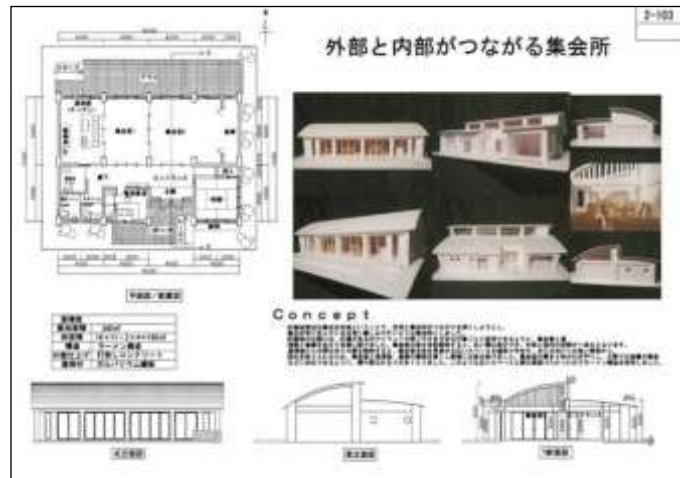
- プレゼンテーションの技術が上手。
- 使い分けのパターンは素晴らしい、よく考えられている。
- 広場と一体になっている点など、動画を見ていてよくわかった。

佳作

外部と内部がつながる集会所

修成建設専門学校 1年

榎本 貴之



【発表】

- ・現代の閉鎖的な印象を持つ集会所とは違った開放的なものを作りたいかった。
- ・引き戸をガラス張りにし、外から内のイベントがよくわかるようにした。
- ・北側全体の間仕切りの運用によりいろいろな使い方が出来るようにした。
- ・和室を南側に配した。興味を持ってもらえるように外部と内部をつなげるようにした。
- ・ハイサイドライトを設け、北向きとなる集会室や湯沸室の照度を確保した。
- ・通常の陸屋根ではなく、やわらかい印象を与えるような屋根の形状とした。

【質疑応答】

(大坪委員長)

- ・模型がいい、手が込んでいる。
- ・提案のような団地外の人のことを考慮すると、東側の工夫がもう少し必要。集会室が北側の広場とつながっている点はよいが、東側は倉庫で遮られている。
- ・集会所の東西面の扱いに工夫が必要。

(平田委員)

- ・今回の課題の特徴である、北側の広場との関係をとらえ、集会室と一体となるよう上手く計画したことがよい提案であった。
- ・北側に集会室を設ける代わりにハイサイドライトで、採光や通風を配慮した点がよかった。



佳作

Promenade

-やすらぎの散歩道-

大阪府立芦原高等職業技術専門校

松本 一生



【発表】

- 地域を一体的に使うことをめざした。
- 広場と集会所を一体的に使うために、集会室を大きく開き、また、北側にはオープンスペースを、東側にはセミオープンスペースを設けた。
集会室はサッシを開くと外部とつながり、さまざまなイベントに対応する。
北側のオープンスペースはイベントにも使用可能であり、状況によって車両の進入もできる。
東側のセミオープンスペースは集会室の一部となり、また南北をつなぐ通路ともなる。
- 平面計画ではホールを中心としたコンパクトな動線とし、また、2箇所以上の出入口を設けることで回遊性のある動線計画とした。
- 立面計画では環境にも配慮し、ハイサイドライトと天窗を設け、採光と通風を確保した。
- 散歩道のように安らぎを与えるプロムナードとなって欲しいとの思いで設計した。

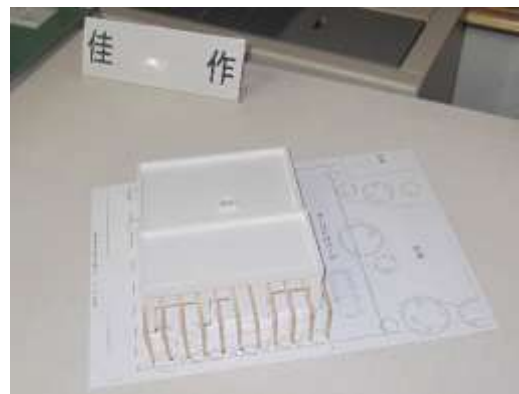
【質疑応答】

(大坪委員長)

- パーゴラを設けて、お茶やガーデニングができるセミパブリックな空間を作ったことが評価できる。
- 提案にある動線計画も評価できる。

(平田委員)

- この提案の一番ユニークな点はみどりの空間となるパーゴラを設けたこと、思いきったよい提案である。

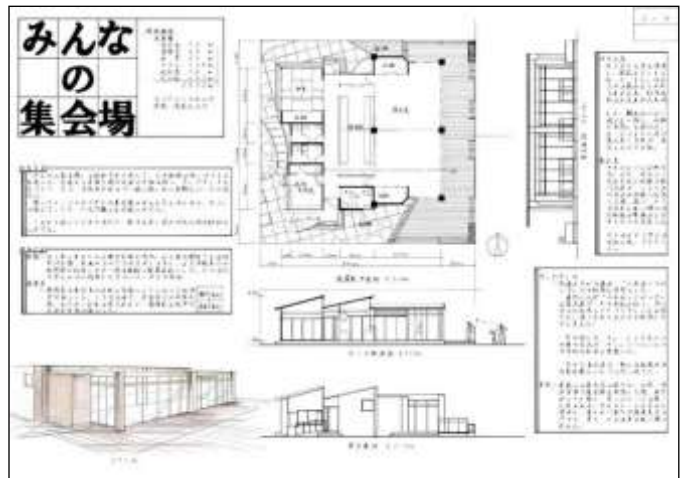


優秀作品賞

みんなの集会場

大阪市立都島工業高等学校 3年

栗野 瑞基



【発表】

- タイトルに込めた思いは、多くの人、様々な年代の人に集会所を利用してほしいということ。
- コンセプトはデザイン性よりも実用性を重視。
- 利用者が多くなるように、「特別な場所」ではなく「日頃から使える場所」にした。
- 外観のデザインは利用者が入りやすいようなシンプルデザインとした。
- 高齢者にも簡単で使いやすい間取りにすることで多くの行事に対応できるようにした。
- 中央に給湯室を設け、歩道を歩く人から見えるようにすることでPRできることを意図した。
- ウッドデッキを全てつなげ、日常の井戸端会議やカフェテラスのようなふれあいリビングなどができるようにした。これにより、団地以外の多くの遠方の方も来てもらえると思う。
- 視覚的に落ち着かせるように東側に柵を施した。

【質疑応答】

(大坪委員長)

- 東側の通りが全面開口となっていて、中のアクティビティが非常によく見える点を大きく評価した。
- のこぎり屋根は水が谷に集まるのでメンテナンス上少し難点がある。
- 非常にシンプルな動線である。ただ、たくさんの方が入ることを考慮すると、玄関部分は少し狭いと思われる。
- 大きな考え方は良いので、細かいところのもう一工夫があればなお良い。

(平田委員)

- この提案の特色である開かれたウッドデッキはとても気持ちの良い空間になると思われる。
- 開かれた集会所というコンセプトはすばらしい。
- のこぎり屋根の雨仕舞いは少し難しいかと思われる。

集一マル

大阪府営松原一津屋住宅集会所

大阪建設専門学校 2年

宿野 綺秀



【発表】

- タイトルの「集マル」は〇(まる)を考慮し、〇(まる)は中心に向かう「求心性」と中心から外へ向かう「発進性」をまとめる形である。
- この敷地の周囲にある古墳の造形に呼応する形として、集会所の形〇(まる)を設計した。
- 機能を〇(まる)でくくる。建物の周囲にデッキを設け、各諸室に出入りできるようにした。
- みんなでつくる〇(まる)を考え、塗ることができる土壁を設け集会所への親しみを演出した。
- 屋根には植物を配しエコロジカルな建物とした。
- 四季折々に様々な草花が咲く飽きのこない集会所をめざした。

【質疑応答】

(大坪委員長)

- 審査の中で、〇(まる)の形については議論があった。しかし、〇(まる)であるのは底部分だけであり、使いにくいことはないという審査となった。
- 〇(まる)の形を、周辺の前方後円墳から捉えたのはすばらしい発想である。
- 〇(まる)の発心性をウッドデッキで表わしているが、内外の接点である土壁の部分は閉鎖的である。土壁はここでなくてもよく、ここは開放的にした方がより内外のアクティビティが生まれると思う。
- スロープのつけ方が惜しい。求心的なつけ方など、もっと自由に工夫ができるはず。

(平田委員)

- 事業者側は円と聞くと使いにくさを想定するが、本案は機能面が考慮されている点ではよかった。



ツナガリと記憶の集会所

大阪建設専門学校 2年

平井 耀介



【発表】

- 集会所には人々の様々なつながりがあると思い、「様々なつながり」について考えた。
- 集会室と利用者とのつながりでは、集会室から全ての部屋に行くことができるような集会所を考えた。
- 外部とのつながりでは、テラスを通じて集会所にアクセスできるようにしている。また、人々がアクセスしやすいようにガラス面を全体に使い、中の活動が見えるようにした。
- 内と外とのつながりでは、3面のテラスを介して集会所の内外をつなげた。
- 空間とのつながりでは、それぞれの部屋が独立して使用できるよう視線に配慮しながら、お互いが記憶のつながりが感じられるような空間とした。
- 記憶とのつながりとは、学生時の調理実習の思い出のようなもので、「わくわく」しながら教えたり教えられたり、みんなでわいわい出来る動線とした。
- 時間とのつながりは記憶とっている。集会室とふれあいリビングをつなげることを考えた。
- 空間的なつながりとともに時間的なつながりを意識してデザインした。

【質疑応答】

(大坪委員長)

- 非常に良い案。審査でも迷ったが、提案的な面でグランプリとは提案内容に少し差があった。
- 造形的な面や、集会室の仕切り方や単独での利用などの機能的な面でもよくまとまった案。
- 東側通りからも中の様子をうかがうことが出来る点もよい。

(平田委員)

- 今回の敷地条件ではあっちこっち開かなければならないところをうまく考えたなと感心している。



土間ん中の賑わい

日本理工情報専門学校 2年

山崎 智紀



【発表】

- 人のにぎわいをまちに開放させることが重要と考えた。
- 集会所に土間を設け、ここを核として人を招く。この土間に3つ機能（交わり、広がり、くつろぎ）を設けた。
- 土間は全ての部屋へのアクセスの起点となっている（交わり）。外部と内部の動線が交わり、建物外へもにぎわいを生む。
- 2軸線を中心に、通り抜ける視線がにぎわいを広げる（広がり）。
- 異なる機能をもつ集会室（活動の場）とふれあいリビング（気軽に立ち寄る空間）との関係が互いの機能を高める（くつろぎ）。
- にぎわいを生じさせるためにフレキシビリティに配慮し、室内外をフルに使って一体的に利用し様々な活動ができるようにした。
- 外構は、周囲の高層住宅の垂直的な様相との対比を図り、水平性を意識するとともに、中間的な空間を形成するよう心がけた。



【質疑応答】

（平井さん） ・外のウッドデッキの雨への対応はどうするのか。

（山崎さん） ・そこはあまり深く考えてはいない。

（大坪委員長）

- 募集要項を逸脱するような案（玄関が無い等）だが、代わりに土足で入っても良い土間にして全体が玄関の機能を担う。このような使い方がむしろよいのではないか、というような設計者の新しい提案・機能の主張がある。これは設計者の試み、役割としてとても大切なこと。

• この提案について設計者はどう考えていたか、またこの案でグランプリがとれると思っていたか。
（山崎さん）

- 土間は最終的に採用した。最初はホールにある大きい玄関のような空間を置くようなことを考えていて、玄関を3箇所設ける代わりに土間とした。グランプリは無理だと思っていた。

（大坪委員長）

- 実施設計の段階では検討の余地がある。東側通りを配慮した、配置の左右逆転など。

• 和室の玄関回りも狭く感じる。

• 庇の要素がデザイン、造形をシャープにしている。

（事務局 濱田）

- 事務局側から補足。委員長から「要項を逸脱する」との発言があったが、要項には、玄関を所要室として示しておらず要項違反ではない。要項は概ね満たしているが一部不十分な点もあった。

（平田委員）

- 斬新なアイデアにあふれた提案。バリアフリーへの対応等、実施に当たっては工夫が必要。

全体講評

審査委員長

武庫川女子大学生活環境学部

生活環境学科教授

大坪 明



- このところの応募数の減少傾向の中、今回は応募増加の取り組みをしたこともあり、221作品と非常に多くの提案をいただいた。ご指導いただいた先生方・関係者のご協力もいただき、お礼を申し上げます。
- 審査をしていて感じたことは、各作品が非常に細かいところまで検討されており、手を抜いたものはあまりなかったということ。各作品様々なアイデア・提案をしていただき、221作品ひとつとして同じものはなく、興味深かった。
- 審査の過程では、現実に建設することも考慮（懸念事項がないか検討）した。とくに、メンテナンスはプロではなく団地の方々が行うことを考慮すると、自ずと維持管理が現実的にできるような建物を選ぶこととなり、あまり冒険的なものは選定しにくい側面がある。しかし、デザインの・提案的な案（実際に建たなくてもよいから、自分の提案はこういうものであると主張した案）も応募してほしいとも思う。そのような若い力を是非発揮していただき、このコンクールにぶつけてほしい。不完全ではあるが斬新な提案などで「奨励賞」を狙うといった応募も是非たくさんしてほしいと思っている。
- 応募作品のなかでも、特に高校生の作品には手描きのものが多く見られ、非常に好ましいことであると思った。私の大学でも最初は手描きで指導を行っている。手を動かすということは大切であり、最終的にはCADでもよいが、まずは手描きで描いてほしい。また、手描きの案は非常に味がある、そのような意味でも手描きに挑戦し、その良さを感じてほしいと思っている。